

日本工学院八王子専門学校		開講年度	2019年度（平成31年度）	科目名	情報系資格対策講座4
科目基礎情報					
開設学科	パソコン・ネットワーク科	コース名		開設期	後期
対象年次	2年次	科目区分	必修	時間数	60時間
単位数	4単位	授業形態	講義		
教科書/教材	資料を配布する				
担当教員情報					
担当教員	西部		実務経験の有無・職種	有・システムエンジニア	
学習目的					
学生が高度ＩＴ人材となるために必要な応用的知識・技能を身に着け、情報処理技術者試験に合格することを目的とする。学生が社会で求められるレベルの基礎知識を身に着けた上で、ワンランク上のＩＴエンジニアを目指す。さらに実務において情報技術を活用したビジネス戦略の立案ができるような実践力を身に着け、就職後の即戦力となり中核の人材になるべく、コンピュータテクノロジー、マネジメント、ストラテジまで幅広い知識と応用力を求める。					
到達目標					
本講義を受講した学生が、情報処理技術者試験に合格することを目指す。経営者の方針を理解し、経営を取り巻く外部環境を正確に捉えるための動向や事例を知ることが合格水準であり、合格すると企業就職後の即戦力、中核の人材となる素質をもつことを証明できる。システム開発においては設計～運用・保守において上位者の方針を理解し、自ら技術的問題を解決できるようなワンランク上のＩＴエンジニアになること、さらに経営面まで意識した高いパフォーマンスを発揮できる人材となるべく、主体的に情報収集し、問題解決への道筋を立てられる能力を身に着けることが目標である。					
教育方法等					
授業概要	情報処理技術者試験に合格することを目標に、試験範囲の講義に加え、過去問演習、解説を行う。習熟度確認のための小テスト、e-ラーニングによる家庭学習課題等、授業の進捗に合わせて適宜実施し、評価に組み入れる。また、前回の講義内容を理解し習得済みであることを前提とした講義を行う。理解不足は放置せず、復習してから講義に臨む必要がある。				
注意点	資格試験は、講義時間内の学習だけでは合格困難であり、学生自身が主体的に自宅学習を進めることが肝要である。授業中の私語や受講態度などには厳しく対応をする。理由の無い遅刻や欠席は認めない。講義に出席するだけでなく、社会への移行を前提とした受講マナーを守ることを求める。（詳しくは、最初の授業で説明。）授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。				
評価方法	種別	割合	備 考		
	試験・課題	60%	試験と課題を総合的に評価する		
	小テスト	20%	授業内容の理解度を確認するために実施する		
	レポート	0%			
	成果発表 （口頭・実技）	0%			
	平常点	20%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する		
授業計画（１回～１５回）					
回	授業内容		各回の到達目標		
１回	ガイダンス、基礎理論		本講義の意義を理解する。また、試験概要、出題範囲について知る。基数変換、負数表現などの知識確認をし、過去問題を解くことができる		
２回	アルゴリズムとプログラミング		情報技術者試験における頻出アルゴリズムを覚え、過去問題を理解して解くことができる		
３回	ハードウェアと構成要素		コンピュータの種類や動作原理、周辺機器の種類と役割について学び、過去問題を理解して解くことができる		
４回	マネジメント		システム開発の流れ、PM、監査、サービスマネジメントについて学び、過去問題を理解して解くことができる		
５回	ソフトウェア		計算問題を中心に学び、過去問題を理解して解くことができる		
６回	データベース		ＳＱＬ、ＤＢマネジメント、正規化などについて学び、過去問題を理解して解くことができる		
７回	ネットワーク		ネットワーク方式・データ通信と制御・通信プロトコル・ネットワーク管理・ネットワーク技術について学び、過去問題を理解して解くことができる		
８回	セキュリティ		モラル、セキュリティについて学び、過去問題を理解して解くことができる		
９回	システム開発技術		システム開発技法について学び、過去問題を理解して解くことができる		
１０回	ストラテジ		企業活動の目的や経営管理、組織構成、企業会計や労働、取引関連法規について学び、過去問題を理解して解くことができる		
１１回	過去問題演習(1)		過去問題の演習、解説を実施し、合格を目指す（ストラテジ系の対策を万全にする）		
１２回	過去問題演習(2)		過去問題の演習、解説を実施し、合格を目指す（マネジメント系の対策を万全にする）		
１３回	過去問題演習(3)		過去問題の演習、解説を実施し、合格を目指す（テクノロジー系の対策を万全にする）		
１４回	過去問題演習(4)		過去問題の演習、解説を実施し、合格を目指す（午後問題対策を万全にする）		
１５回	過去問題演習(5)		過去問題の演習、解説を実施し、合格を目指す（総合問題演習を行い合格ラインの点数を取る）		